

電車でぼうけん

くぼ田 幸子

アrikunは、電車にのって、おでかけです。ホームには、たくさんのお虫が、電車をまわっていました。

「どこいこうかな」

わくわくします。行き先は、まだきめていません。

あつ、むかで電車がきましたよ。アrikunがのると、プーと音がして、ドアがしまります。あいているざせきがなかったので、アrikunは、リュックのおねえさんのそばに立ちました。

電車が動き出します。

おねえさんは、すぐに、ポケットからスマカを出してみつめます。大きいカードのようなスマカのなかは、動いているみたいでした。しそうです。まわりの虫たちも、スマカを見ていました。アrikunは、スマカをもっていないので、ひまでした。

まどの前には、背の高いバッタの若者たちが立っているの、けしきも見えません。ち

ようど駅についたので、おりることにしました。

「ここ、どこだろう」

きよろきよろすると、むこうのホームに、きみどり色の電車がとまっているのが見えました。アrikunは通路をわたって、電車の前にいきました。

「かっこいい。いもむし電車か」

いもむし電車は、せんとうがもりあがり、目のような黒いもよう、ひとわくごとの白と黒のせん、すそには白いぷくぷくしたせんがひかれています。

一りようだけですが、ざせきはあいていました。きみどり色のざせきにすわると、ふかふかしています。

プーと音がして、電車が動き出します。

シュー、ゴロゴロ、シャーシャーシャー、ガタンゴトン、ガタンゴトン、カンカンカン、ゴロゴロ、キュー、いろいろな音がいそがしくかわっていきます。

まどの外は、田んぼ、学校、工場、いっぱいの家、川、かんばんがあり、けしきが電車に見せるように、かわっていききました。

「ごじょうしゃ、ありがとうございます。つぎはしゅうてん、『うつくしのにわ』です」

ほうそうがあつて、電車がとまりました。

「うつくしのにわか。どんなところだろう？」
アrikunがホームにおりると、花のかおりがしてきました。

かいさつを出たアrikunの目にとびこんできたのは、たくさんのお花ばなです。

「わあ」

赤やピンク色、きいろ、白色と、花がさきみだれていました。そこに、たくさんのお花はちようが、上にいたり、下へいたり、ひらひらとびかっています。

駅のほうから、いもむし電車のしゅっぱつする音がきこえてきました。

「いもむし電車さーん。ありがとうー」
アrikunは手をふりました。